

修学旅行 紀行文 3-4 八幡明彦

S52  $\dot{o}$ 

(四百字詰め原稿用紙 96

第一日目・

第二日目

1 8

0402 新頁

第三日目 09

第四日目・

あとがき・

う て決して観光旅行だけに終わってはならないと思 修学旅行というものは 人から説明してもらうばかりで、自分から 多くの修学旅行では先生に作っても ,学を修める旅行であっ

> 憶に残らないのである。 ても面白くないし、 とり組むという姿勢がない。 旅館での枕投げのことしか記 そのために、 何を見

徒も、 それから僕達は大変困難な道を進んだ。 先生も生 都の知識を深めた。 その中で僕達は、計画の楽しさを知り、奈良・京 作ろうと言いだしたのは二年生の三学期だった。 僕達が、 今までの修学旅行の何倍もの努力をした。 そんな旅行はいやだ!自分達で旅行を

院の感じはふきとんだようだった。 付けたが、 養老院的雰囲気・から抜け出すという意味で名 僕の班は愛称『養老軍団』。クラスの活気のなさ 研究の段階ではみんな真剣になり養老

うちは班員さえもその意味をはっきりとは分から 研究テーマは『石の神秘を探る』 だが、 初めの

511

なかった。 いると思ったのである。 たまらない魅力があり、 しかし、飛鳥の謎を秘めた石造物には こんなテーマが似合って

行に臨んだ。 コースで困らないように十分な研究をして修学旅 僕達は、 何枚ものレポー トを書き、 グループ別

第一日目--

うと思うけれど日数の都合でダメらしい。 線を使うものだから、たいして遠方へ来た感じが しない。普通列車で行けば旅の実感があっただろ 洋光台駅を出て約五時間で京都に着い ここは京都だ。 た。 まあ 新

観光バスに乗り、奈良公園へ向う。 誰かが言っ

「横浜と変わりないね。

本当に京都かね、ここは。 駅の付近は横浜とさほどちがった光景ではない。

すばらし

着した。まず鹿と一緒に記念写真。そして解散 「うわあ。 一時間半ほど奈良街道を走り、 いよいよグループ別行動だ。」 東大寺南大門に . 到

「あれ、雨が降ってきたぞー。」

イルを持って僕達の班はまず

は、当然のことながら大仏がい 余り見ばえのしない大仏殿に

大仏殿に向った。昭和大修理で 小雨の降る中を、カメラとファ

像は冷たい銅のかたまりにしか見えず 友達にそう聞かれても、僕にはその毘盧遮那仏坐 「暗いからフラッシュたかなきゃ撮れないぜ。 「大きいなあ。鼻の穴に人が入れるんだろ。 すばらしい仏像だと思わないか?」

「好きになれないね。」

という他になかった。

邪鬼がユニークな顔だと言っていた。 天王・二力士のダイナミックな姿を後藤君は怖い 怖いと言っていたし、渡辺君は四天王の足の下の 次に行った三月堂の仏像はすばらしかった。 だが、 僕は 兀

> であり、天 るで金属のような重量感があり、 ルほどの像で、布と漆で作った乾漆造りだが、ま 三目八臂 (三つの目と八本の手)の三・六メート なく続く世界)から人間を救い出すという仏だ。 ている帯を使って、生死の苦海 (生・死のはてし 不空羂索観音というのは観音の化身で、首にかけ らいである(自分でも意味が分からなかったが)。 に飛んできて、 薩立像に大感激で、「 体じゅうから威厳が矢のよう 何と言っても、本尊脱活乾漆造不空羂索観世音菩 目に突きささった」と表現したぐ それでいて繊細

冠がまた る。その宝 平彫刻の 頂点であ



の化仏をつけた、 く、二万数千の宝石をちりばめ、鏡が貼られ、 豪華絢爛たるものなのだ。

音立像は素晴しいのだ。 という顔をしたが、誰が何といおうと不空羂索観 僕のベタぼめに、友達は「そんなにいいかね?」

ころのすみに中性院と書いて印刷したところ、 生にこう言われた。 旅行委員(養老軍団の一員)がしおりのメモのと 三月堂を出ると、次は幻の (?) 中性院へ向っ この中性院には、エピソードがあった。

はありませんから。」 「これは消しなさい。 ふざけています。 こん なの

たので、憤慨した。よし、中性院へ行ってやろう。 養老軍団の仲間達は中性院があることを知ってい

表札がかかっていた。 そんな訳で僕達は中性院へ行き、これを見つけ その門の柱には「華厳宗 中性院」と書いた

「やったー!見つけたぞ。

んなところに何かあったっけ」という顔をしてい 随分大げさな喜びようである。 「おれ達は勝ったんだ。 よし証拠写真を撮ろう。 観光客が通り、「こ

っ た。

やはり幻の中性院である。か、どんな人が住んでいるのか見当もつかない。中性院は見つけた。しかし、なぜそんな名なの

rな N。 うで時計を見ると、五時までには十五分ほどし

「大変だあ。興福寺宝物館が閉まっちゃうぞ。かない。

「走るぞ!」

「阿修羅が見れなくなる?!」

避けながら奈良国立博物館の庭を走った。みんないっせいに駆け出した。鹿のふんを巧みに

「こんなところから行けるのか?」

「分かんないよ。そん

「何とかして入ろ「あ'あれだ。急げ!」なの。」

ゞ



。 ゝ , ヽ 。 Jを、セルエ゙、、、こゝっ ; ま目の前で閉められてしまった。 しかし、僕達が宝物館の入口に着く寸前に、扉は

「くやしいー。 阿修羅が見たかった。」

ている五重塔をながめていた。しかたなく僕達は、みんながうじゃうじゃ群がっ「目の前で閉めるなんて残酷だ。」

しい塔だ。こ 巨大でたくま いさわしく を原氏の氏



興る寺)とし、川原寺の別名「弘福寺」の「弘」まり蘇我氏の氏寺であった法興寺を元興寺(元、良へ移った。しかし川原寺は四大寺からはずされ、良へ移った。しかし川原寺は四大寺からはずされ、良へ移った。しかし川原寺は四大寺からはずされ、京大寺・薬師寺、法興寺(飛鳥寺)を大宮大寺・薬師寺・川原寺・法興寺(飛鳥寺)をの興福寺の建造には面白い説がある。飛鳥四大寺、の興福寺の建造には面白い説がある。飛鳥四大寺、の興福寺の建造には面白い説がある。飛鳥四大寺、の興福寺の建造には面白い説がある。飛鳥四大寺、の興福寺の建造には面白い説がある。飛鳥四大寺、

っている。なんとも巧みな方法である。いるのである。興福寺は藤原氏の氏寺の性格をも

'たことを感じた。 僕はこの藤原氏という政治家が驚くべき者であ

ただきまーす」。 全部の班が食卓につくと、みんなそろって「い

「この味噌汁、よく冷えてるなあ。」

「おい。誰かこれ食えるやついるか。」

「これ、鹿のめしじゃないか。」

食べた。ご飯がなくなると、「まずくてもおいしそうに食べる」と書いてある。「うまい」と言い出した。修学旅行のしおりにも、館のおばさんが来ると、突如として「おいしい」と、みんな片っぱしから文句を言い始めたが、旅

まで誰かが食べてしまうのである。 り不思議である。パセリからエビのしっぽに至るら不思議である。パセリからエビのしっぽに至るいら僕の班は毎日ほとんど何も残さずに食べたかなだせて、ご飯ぐらい好きだけほしいよ。」と、

である。 表会があった。班別コースのときの報告をするの夕食後各班ごとに入浴をし、クラス別に学習発

なにその存在を認めてもらったのである。 我が班はもちろん中性院のことも発表し、みん

彼らが寝てしまってからも、くだらない話をして通りになった。僕達の部屋には他の班もいたが、そのいないからなかなか寝ないと言っていたが、そのをした。旅行の前に手塚先生が、一日目は疲れて発表が終わると元の部屋にもどって就寝の用意

をコウと読み、

コウフクジ (福を興す寺) として

4

寝ている友達にはおもちゃの手錠をかけて遊ぶ。らしい。三人ほど起きるともう寝られなくなり、が、一人目がさめると他の者も目がさめてしまういだが数時間でぱっと目がさめた。声もたてずにいて、一時になってしまった。それから一応寝た

第二日目

した。 んなねぼけた顔。他の班や先生からは文句が殺到そんな訳でその夜は三時間しか眠らず、翌朝はみ

くて寝られなかったぞ。」「お前達の班はいつまで起きてるんだよ。うるさ

「先生達だってねむいんだから寝かせてくれよ。」「先生達だってねむいんだから寝かせてくれよ。」

みんなが並ぶと説明を始めた。曲がっていくと解説をしてくれる人が立っていた。へ入っていくと、大きな金堂が正面にある。右へ大きく「唐招提寺」と書かれた門をくぐって中

な・・・」この奈良の中では火災に一度も合っていない貴重「このお寺は、鑑真大和上のお建てになった寺で、

わてて金堂へ走った。明が終わるとあと五分か十分しかない。僕達はあれど時間のむだであるとしか言いようがない。説強不足すぎるのか、この人が悪いのか知らないけ分かりきったことばかりで、他の修学旅行生が勉と、延々と説明をしてくれる。しかしその内容が

いね。. 「四天王が小さくて金堂を守るという感じじゃながあり、さすが大陸の技術はちがうと思った。如来立像・千手観音立像の三体は堂々とした威風如来立の仏像は巨大である。盧舎那仏坐像・薬師ここの仏像は巨大である。

「三尊が大きいからだよ。」

あるんだろう。」 「千手観音の手は四十二本じゃ なくて本当に千本

「乾漆とは思えないぐらい細かいね。」

「急がないと他が見れなくなるよ。」

んのせいだ。 唐招提寺はじっくりと見れなかった。 あのじいさ

描かれた看板があった。降りてバスガイドについていくと、東塔の水煙が乗って二、三分もたたないうちに薬師寺口につく。門を出ると遠くに薬師寺の塔が見える。バスに

「あ、水煙だ。」

があった。さすが薬師寺の塔は有名である。もう少し歩いて行くと「喫茶すいえん」というのだ。仮にもこの僕は薬師寺の塔の大ファンなのだ。んでガイドが言った。へん、これぐらいあたり前「うわー。よう、勉強しとるんやねえ。」と関西ベ

「とうとう東塔を見れたぞ。」の方から入った。 金堂の左の方に塔が見える。 寺はそもそも南大門から入るべきなのだが、北

う。こんな修学旅行はめずらし いたが、まるでコメディアンだ。その上、顔も話 いたが、まるでコメディアンだ。その上、顔も話 いたが、まるでコメディアンだ。その上、顔も話 いたが、まるでコメディアンだ。その上、顔も話 いたが、まるでコメディアンだ。その上、顔も話 かし言って、僕達が来るのを待っていたとい ると、この坊さんは洋二中の説明がどうしてもや ると、この坊さんは洋二中の説明がどうしてもや ると、この坊さんは洋二中の説明がどうしてもや ると、この坊さんは洋二中の説明がどうしてもや のと、この坊さんは洋二中の説明がどうしてもや なんが出てきた。薬師寺の坊主は面白いと聞いて ことができたのである。塔の東側に集まると坊 のと、こんな修学旅行はめずらし

いからだ。

再建したという金堂で、外側は堂に入った。薬師寺だけの力でが説明が終わるとピカピカの金

木造だが、中は耐震耐火鉄筋コ

のする薬師三尊像が安置されている。火災で偶然ンクリートである。大理石の須弥壇の上に黒光り

ある。 に黒く なったとは思えないほどすばらしいつやが

やさしい顔だね。

三体とも丸みを持った本当にやさしい顔だった。 「左右の日光月光菩薩が腰をひねってるだろう。



たし る構図になる。 薬師寺 ら見ると、 にもあった。 で買った写真にもあっ ルか行くともう塔の姿 金堂を出て塔を西か ,前に見た写真集 よく見かけ 仏足堂に

層の裳階が屋根と重なっ ζ は変わって見える。 向ってほんの何メート 台形を三つ重ねたよ

うになる。

「屋根は最も立派な三手先組物で木材も太いけど、

裳階は簡単な

てい らよく調和し 平三斗組物で 木材も細いか るんだ

と友達に話し

かけると、 彼はこう言った。

「おい、列からはみ出るなよ。」

の礎石がある。 伽藍中心線を軸として東塔と対称な位置に西塔

西塔が残っていたらさぞかしすばらしいだろう

暗くて仏足石がよく見えないんだから考えものだ。 じっくりと考える時間もなく仏足堂へ向かわされ 寺をはなやかにかざっていたことだろう。 をつけた塔・金堂・講堂などの建物は、 の美しい塔の門を通って金堂へ行く。 門をくぐると東西にそびえる二基の塔があり、 僕は頭に創建当時の薬師寺を想像してみた。 仏足堂を作ってまつっておくのもいいけれど、 各層に裳階 さぞかし しかし、 そ

> った。 買わない訳にはいかない。 なのに中に売店を作るなんて非常識だと思ったが で写真やパンフレットを売っていたのでそれを買 塔の南側を通って東院堂へ入った。 この堂は聖観音立像が安置してある。 左はじの方 それ

ると、 つ 音立像を と聖観 と 見 後藤



をした像である。 いる。僕もそばに行ってながめてみた。 後藤君はこう言った。 端正な姿

見つめて

惚れらしい。 うに見える。 確かに観音の慈悲を体のあちこちに表しているよ 「体じゅうから慈悲がわき出している。 どうやら後藤君は聖観音立像に一目

東院堂から出ると東塔が目の前にそびえる。

「さあ東塔をじっくり見よう。」

て Ļ 東塔に近づこうとすると、 ガイドが旗をふっ

「四組は集まって下さー ιį

僕達はぞろぞろと仮堂へ連れて行かれた なに?東塔はどうなるんだ。」

聞いたところによる ず写真にとった。後で ヮ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ 水煙の模造をすかさ 僕は仮堂まえにある 水煙だ。」



煙だね。」 「すばらしい。 すべての塔のうちで最も美しい水

と撮影禁止だったら

を造ったとはね。 「三十数メートルの高い所にまでこんな美しい 物

ジとは少し違っていたような気がした。 中へ入ると薬師寺復元模型があった。 僕のイ こんなお

6

ほど前にもどってみなくては、 もちゃみたいな模型じゃだめだ。 本当の薬師寺は見 やはり、 千百年

見たかった。 と回ったけれど肝腎の東塔はじっくりと見ていな から南側・東側をまわって出た訳で、 塔の北側から東側へ行って説明を聞き、次に西側 入ってきた所から外へ出た。 写真は十枚以上撮ったが、そのものをもっと 考えてみると、 塔をぐるり 東

寺東塔が見える。 バスに乗って法隆寺へ向う途中、窓の外に薬師 隣の後藤君に話しかけた。

るのも格別だね。」 「あの塔は近くで見るのもい いけど、 遠くから見

彼はもう聖観音に感激して、

れを造った建築家は天才だ。」 出していた」というものだから、僕もまけじと、 「薬師寺の塔は世界一だ。正に凍れる音楽だ。 「聖観音はすばらしい。 体じゅうから慈悲がわき あ

と東塔を誉め称え、二人して、

「薬師寺は世界一の寺院だ。」

班内だけで楽しんでいたと言われてしまった。 と騒いだものだから、旅行後の反省のときには

帰りには二百円の紙袋を買って入れたのである。 かばんに入らないので、手で持っていた。 分苦労させられた。 百円だったが、実質的には五百円かかった上に随 写真やパンフレットを見てみた。 写真は四枚組三 く訳にはいかないから友達の紙袋に入れてもらい、 一通り言いたいことを言ってしまうと、今度は バスの中に荷物を積むときに 持ち歩

みようと思い色々と本も読んでみた。 ろがたくさんある。 隆寺についた。法隆寺は謎の寺である。 楽しく薬師寺のことを語り合っているうちに法 それがなぜか少しでも考えて 歩いて行くと謎 変なとこ

の中門である。 バスを降りて南大門から入り、

まん中に柱があるね。

れた聖徳太子の霊が出ないようにだという説が 四間だからそうなるんだ。 これは中に封じ込め

> あるんだ。」 「だから金堂の二階も四間だし塔の五層は二間に 「じゃあ法隆寺は太子の霊をとじこめた寺?

なっている。



を見た。 左に折れ回廊の間か 中門は聖霊会のとき わきで説明を聞いた ら入った。 しか開かない クラス別で伽藍 五重塔の ので、

ない。 自身もごちゃ ごちゃ を構成する一人なので仕方が ごちゃごちゃと人が多くていやになったが、僕

置かれている。 あるのはなぜだろうか。 謎の金堂へ入ると、暗い内陣に三体の如来像が 一つの堂に本尊級の如来が三体も

「右から薬師・釈迦・阿弥陀だよ。

なんで如来が三つもあるんだ?」

弥陀を造った。」 いるんだって。そして死後の冥福を祈るために阿 「薬師が太子の父用明天皇、釈迦が大子を表して

ないんだい?」 「なぜ聖徳太子の霊がとじ込められなくちゃい け

がない 霊が祟ると考えたんだ。ここの仏像はみんな動き 「太子の子孫二十五人が全員殺されたからさ。 いだろ。 つまり死の寺って訳さ。

どん行って の班はどん うちに、 察している の仏像を観 僕らが三体 他



図の釈迦の死を悲しむ人の表情が素晴らし の四面には塑像が安置されているが、 しまった。なかなか見るべき所の多い堂なのだが。 不気味な金堂から出ると、塔へ行った。 この塔 ほらあった。 十大弟子だ。」 特に、

「こっちの方が感じ出てるよ。」「おれは、あの泣いている人がいい。」

泣き声が聞こえて来るような傑作だった。

説明してあげられた。 さい仏像が多かった。が、玉虫厨子だけは班員にては主なものだけしか研究しなかったので分からことで、急いで見ていった。法隆寺の仏像についる一時間必要という大宝蔵殿だが、十五分というら興味を持っている玉虫厨子が見れる。少なくとの明味を持っている玉虫厨子が見れる。少なくとがに西院を出て大宝蔵殿へ入った。一年の時か

「うわあ。玉虫厨子だ。」

「あってよかったな。」

あるのがうれしかった。 友達がそう言った。 あるのは当たり前なのだが、

捨身飼虎図と・・・・」る。扉には千の仏さんが彫ってあって、下の絵は「上の家みたいなのが宮殿で、中には観音像があ

た。 覚えていたことをみんな喋って、大宝蔵殿から出

は救世観音なる秘八角の夢殿の中に歩き東院に入った。

さらに東の方へ



ない恐ろしい顔つきである。殿を建てさせた行信の像もあったが、僧とは思え公開は年二回だけだ。堂の中には、光明皇后に夢仏が安置されていて、すばらしい仏像だというが



こわい。」

目がつりあがって

て

食べ終わって、先生から注意があった後、各コがやはり鹿めしだった。法隆寺に鹿はいないが。

しを食べた。多人数だと

達は法隆寺を出た。そば

夢殿を見終わって僕

にある食堂でちらしず

っちもないって感じ。」

慈悲なんかこれっぽ

見つけて、出発した。 僕の班は飛鳥へ「石の神秘を探り」 言っちゃ悪いがひどい自転車ばかりで、ブレーキ るが、みんな眠くなってきたようだ。 曲がっていたりした。 いのになるとブレー キがとれていたりハンドルが のききが悪いなどというのはまだ良い方で、 各自、飛鳥レンタサイクルの貸自転車を借りた。 「さあ、サイクリングだ。いねむり運転は困るぞ。 るが、そんなことはどうでもいい。とにかく眠い。 みんな眠りこけた。 バスガイドが何か説明してい から今ごろ睡魔が襲ってきたのだ。バスに乗ると ったのに西ノ京・法隆寺でがんばって起きていた ス別のバスに乗ってグループ別行動である。7 眼がさめると間もなく亀石の駐車場に到着。 どうにかまともに動くのを に行くのであ 今朝は眠か ひど

「とばすぞー。」

「おー。」

いる。空気は澄んでいるしいい所だ。の道は、舗装してあるが周りは水田などが残ってしぶりのサイクリングは快適だった。しかも飛鳥このところ自転車なんて乗っていないのでひさ

で残るのみである。建築だったのだが、今はただ飛鳥大仏が無残な姿だ。創建当時は塔を三つの金堂がかこんだ特異なまもなく飛鳥寺に到着した。最古の本格的寺院

しい話だった。蘇我馬子になったつもりで話したり、なかなか楽ころだった。飛鳥大仏になったつもりで話したり、入ってみると、ちょうど住職の話が始まったと

じさせた。鎌倉時代にこの仏像は火災のためバラのような顔である。口もとの微笑は、僕にそう感いの特徴である表情のきびしさが見られる。しかり僕はそれ以上に、その焼けただれた顔に落ちがれた貴族にも似たものを感じた。落ちぶれて、の人の特徴である表情のきびしさが見られる。しているような顔である。日もとの微笑は、僕にそう感は焼けて大部分が造り直されたものだが、飛鳥面は焼けて大部分が造り直されたものだが、飛鳥面は焼けて大部分が造り直されたものだが、飛鳥でした。頭はできせた。鎌倉時代にこの仏像は火災のためバラ

んな事があって、 バラになってしまい、雨ざらしにされていた。 自然に表情が変わったのだろう そ

向っ た。 飛鳥寺を出ると、 少し高い丘を登るとヤブの中にあった。 今来た道をもどって酒船石に



途については十数種 の花崗片麻岩だが、用 長さ五メートルほど だ。平にけずった表面 な石造物はないから の謎を秘めた、神秘的 てある。これほど多く 格段ちがう研究をし に溝と穴がほられた、 この石については

たんだ、占いだ、辰砂だ、製薬だ、標識だ・ 油機だ、 類の説があり、 さまざまな意見がある。 十五メートルの石樋だ、 奇ッ怪窮まる石だ。醸造用だ、 曲水の宴に使っ 製

「やっぱり液体を流したに違いない。」

「ここで割りとられているんだろう。」

を継いだとは考えられないかな。」 のみの跡みたいなのがあるけど、ここで他の石

ほぞ組だな。」

来ないだろう。 選んだ理由なのだから。 立てるつもりだ。 その謎解きの魅力こそが飛鳥を この石が何に使われたか、決して解明される日は 「見れば見るほど謎のかたまりだ。 しかし、僕達は納得のいく仮説

僕達が酒船石をあらゆる角度から見ていると、 とりのぞいていったのではないか。 の渓流から板蓋宮に飲料水を引いたのではないだ 船石などをつなげた巨大な導水溝があって、 であると思う。付近から出土した第二、第三の酒 僕個人の見解としては、これは水道設備の一部 人らしいのが数人来て 複雑な穴の組み合わせによって不純物 谷間 地 を

んや、

「ハイ、この上に座って・ 「酒船石ってゆうんやて。

たのと、 Ŕ だと思った。 僕達の修学旅行はその意味で大成功だったの 記念写真である。やはりなにもしないで行っ とことん調べて行ったのでは見方が違っ



か? はたしてそうであろう 子の墓と言われている。が、 きたのであわてて石舞台 へ向った。石舞台は蘇我馬 時間が足りなくなって

こ れ が 古墳だ っ た の

のみが残ったんだ。」 土もはぎとられ、 副葬品も盗まれて、 ただ石室

「そんなに憎まれていたのは蘇我氏以外の何者で

もないだろう。」 「うん。馬子の墓に違いない ね

というから、 たことだろう。 しかしこれだけの墓を造るのは大変な労力を要し よほどの権力がなければ不可能であ 七・五トンを超える巨石が三十個



を

恐ろしい顔である。 顔は何かを訴えようとし た。何かたとえようのない 面石が非常に印象に残っ 次に行った橘寺では二 一つの

「どっちも恐ろしくて悪 右善面、左悪面だって。

ていたのである。

人の顔みたい。

いか。僕はそう思った。 があることを諷刺した、 「それは、 当時の政治家達の裏切りや、 名もない・ 人の作品では ニつの 面

そこであわてて鬼の俎・雪隠へつっ走った。 ケ所しか見られないような感じになってきた。 いよいよ時間が足りなくなって、 どうやらあと 細い

がころがっていた。 道を下ると、道の高い所に俎、 田んぼの中に雪隠

作っていたんだよ。」 「始めはあの俎の上に雪隠がかぶさって、 石室を

それが地震か何かで上半分が落ちた訳か。



俎と雪隠とはよく言ったもんだ。

になったのも運命のいたずらである。 の人はユニークだと思う。古墳の石室が俎・ あってこんな名がついたのだが、 で料理して食べ、雪隠で用を足したという伝説が この付近に鬼が出て、人をつかまえては俎 名をつけた飛鳥 雪隠

「猿(猿石)はどうする?」

「もう間に合わないだろう。

しかたない。 急いで亀さん (亀石)を見に行こ

と亀石がはいつくばっていた。 田んぼの中のどろどろのあぜ道を行くと、 ぽつ

正体がはっきりしない。 実はこいつも酒船石に負けないほど謎の石で、 条里制の標識だ、寺の礎石だ、 と他説はいろいろある。 亀を祭ったと村人は言う 須弥山だ、



かいなのか分からない 「つぶってるのか、 「かわいい目だね。 上目づ ね

よ。それ以外のものじゃな 「これはやっぱり亀さんだ

> つ つ ていた。 て亀石駐車場にもどった。 とにかく時間がなかったので、急いで写真を撮 もうみんなバスに乗

うわー、 おくれちゃった。

すいませーん。」

の家へバスでもどった。 った。酒船石や飛鳥大仏の感動を胸に秘めて、 さあ、 あとは帰るだけだ。 飛鳥はやっぱりよか

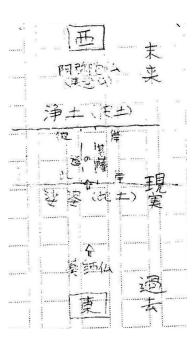
班行動のコースを変えられた班もあった。 班行動をした班もあった。前日の行動が悪くて、 一番班行動の時間が長かったからだ。 すばらし その晩の報告会はとても楽しかった。二日目は

てしまった。 の証拠に、その日はみんな疲れて、ぐっすり眠っ 班行動は決してやさしいものではなかった。

第三日目----。

各自荷物をまとめて宿を出た。 九体寺といえば九体の阿弥陀像のある寺だ。 バスは九体寺へ向

説明はうまい。 陀、東に薬師如来をまつるのか、なぜ太陽が真東 員星座させられ、 を解説してくれた。 から登る日を彼岸というのか、 も静かで、落ちついた所だ。 阿弥陀堂へ入って全 三十分ほどで山の中の九体寺に到着した。とて 説明が始まった。 朿 国語の教師というから、 とても興味深い なぜ西に阿弥 事



西の阿弥陀の上に沈むからその日を彼岸の中日と って向う岸を彼岸と言い、 阿弥陀は、 薬師如来は娑婆から浄土へ進むのを後から助け、 浄土で迎えてくれる。 東の薬師の上を通って その間に川があ

になったのである。ても面白いので仏教というものに関心を持つよう言う。すべてが理屈に合っている。僕はそれがと

みなかった。」 そんな訳があるなんて考えても

仏像の配置にまできまりがあるのか。」

ければならない事もある。が、僕達の班はこの寺を研究した。だから調べな動でない所は各班で分担して研究発表をしたのだ」九体寺を出ると、万福寺へ向った。グループ行

たのである。中国から渡った隠元隆琦が始めたので中国風だっれば日本ぞ茶つみ歌」の山門である。万福寺は、バスを降りると門の前に集まった。「山門を出づ

て中へ入った。であった。しかたなく他の人に説明をしてもらっとは前代未聞なのだが、実際は連絡不行届で不在い方が話をしてくれる予定だったそうでそんなこ後で聞いたところによると、この寺の一番えら



まず魚板の横を通っ の形をした板で、それ の形をした板で、それ の形をした板で、それ が行く前から気にな れが行く前から気にな

は人間の煩悩だそうだ。とをして変えられた姿だそうで、くわえているの

るのだ。布袋は弥勒菩薩の化身である。
、いいのである。実はこれ、布袋の姿をしていが、弥勒菩薩と言っても中宮寺の半跏思惟像とはが、弥勒菩薩と言っても中宮寺の半跏思惟像とは

「あ、ホテイさんだよ。」

「ナベ(渡辺君)だナベだ。」

「これが本尊だなんて傑作だね。

とになっている。どういう訳か、渡辺君は布袋に似ているというこ

「それっ行けー。」にもう出口へ向う。少しだけ自由時間があった。一番見たかった十八羅漢を見ていない。それなのここを出て、あちらこちらへ入ったが、僕達の

僕らは急いで十八羅漢を見に行った。

- 羅漢ていうのは菩薩の前の修業の段階だ。」
- 何?ヒントラバラ・・・」
- 「賓度羅跋羅堕闍だよ。みんな変な名前だね。」
- 「あっ羅怙羅だ!」
- のかは分からない。釈迦の優しい顔があるという像だ。どんな意味なかっと口を開いて、自分の胸を左右に開くと中にていたので、僕らのアイドルとなっているのだ。「古寺巡礼」という本にこの羅怙羅のことがのっ

十八羅漢
この世にいて正法を中る蜀漢。
のというハッラッジャ・ハンタッカ
のカナカハッタッジャ・ナカサイナ
のソヒックッ・インカタッ
のナクラ のハッナハッシ
のカリカ ・チュタッンタッカ
のカリカ ・ケイユウ

い危い・・・。てしまった。僕達は一度すでにおくれている。危れに見とれているうちに時間におくれそうになっれた見とれているうちに時間におくれそうになった。それぞれ五十八体とも個性のある像だった。そ

少し他の寺と違ったようには感じた。出づれば日本ぞ」という感じではなかった。だが、は中国へ行ったこともないし、それほど「山門をこの寺は中国的だ中国的だと言われるが、僕達

昼食は嵐山の「レストハウス」で食べた。奈良

のときほどひどい食事ではなかった。

できのうより楽だ。の班は西芳寺、広隆寺に、どちらもバスで行くのの班は西芳寺、広隆寺に、どちらもバスで行くの昼食後グループに分かれてバスに乗った。僕達

いう。

いう。

いう。

のだが、さいふに入れていると金に困らないと
と非、見たいと思っていた寺だ。西芳寺は、もう
是非、見たいと思っていた寺だ。西芳寺は、もう
とが、は売店でも売られていた。僕はそれを買っ
にのだが、さいふに入れていると金に困らないと
のだが、さいふに入れていると金に困らないと
のだが、さいふに入れていると金に困らないと
のだが、さいふに入れていると金に困らないと
のだが、さいふに入れていると金に困らないと



中に入るとすぐに をさついばむ小鳥か をついばむ小鳥かな」の苔である。 「うわー、きれいだなあ。」

「これは川の氾濫なんかで自然に生えてきてこう」。」

と思っていたけどな

「信じられない!」

なったんだって。」

があるだろうが。 にするなんてもったいないと思う。寺にも言い分そうな環境であった。しかし、こんな寺を予約制うっそうと木がしげり、いかにも苔の繁殖しやす僕達は思いもよらぬ苔の美しさに驚嘆した。

を借してくれと言われて借してあげたもので、ますんだ。石で滝を表わしたりして。」この寺は余りにもきれいで、苔に見とれているこの寺は余りにもきれいで、苔に見とれているすんだ。石で滝を表わしたりして。」しばらく歩いて行くと枯山水の石庭があった。しばらく歩いて行くと枯山水の石庭があった。

駐車場までマラソンをやった。すますおくれてしまった。そこで、みんな全力で

「うひゃー、またおくれちゃった。」

く広隆寺に到着。 フーフー 言いながらバスに乗ると、休む間もな

見に来たのである。この寺にはかの有名な木造弥勒菩薩半跏思惟像を

うめずらしいものだ。
・ 宝物殿に入るとまず正面に千手観音像。手が四宝物殿に入るとまず正面に千手観音像。手が四

んだけどね。」
「あ、これは聖徳太子二歳像だ。法隆寺にあった

「こわい顔だね。」

年後に来たとき、どうやって像があった。五十六億七千万さらに先へ進むと弥勒菩薩が出たんだだって。」



人を救おうか考えている姿である。

「あったぞ。これだよ。いい格好だね。」

がいいムードじゃないかなあ。」「昔は金箔が貼ってあったんだろう。でもこの方

学旅行生がいたんだってね。」「あんまりすばらしいんで、これに飛びついた修

「おれも飛びつこうかな。」

あるのだろうか?

おいらが、隣の弥勒菩薩をひきたたせるためにはぎこちない姿で雑な感じがした。百済から渡ったが、そっちのがあったが、そっちのはなやかな体の線がすばらしい像だった。隣に泣

バスは再び嵐へ。 今度はおくれないように早めにバスにもどった。

に乗り金閣寺へ向った。二十分程で到着。 嵐山に全グループがもどると、クラス別にバス



った。 るのだが、それが十 をはり直した所があ もいいとは思わなか きらきんで、ちっと 金閣はやたらきん それに、 金箔

ある。 の緑がマッチして良くなるんじゃない?」 ればましになると思い、こんなことを話し合った。 金閣が気に入らないので、西芳寺と足して二で割 くて、現代的で、 はり合わせたもので境がきたなくなっているので 「金閣寺にも苔を植えてやれば、金閣の金色と苔 どうもその十センチという数が気にいらな いやな印象だった。僕達の班は

「金苔寺だ。」

これは良い考えだ。 「そうだよ。金苔寺にすればいいんだよなあ。 いやだめかなあ。 だめだろう

各部屋になべを持ってきて班ごとにすきやきであ ブリがいたがそれを除けばいい感じの宿だと思っ の宿「日昇別荘」へ。僕達の部屋の入り口にゴキ 人に奈良のひどさを語った。 金苔寺、 何よりも良かったのはその晩の食事である。 みんな奈良の鹿めしとの大差に驚いて、 金苔寺と言いながら金閣寺を出て京都 宿の

この日の夕食はとても楽しかった。

かったんだって。」 「こいつ、すきやきを卵につけて食べるの知らな

「変なやつだ。」

た白滝誰が食べた!」 おい、おれが食べようと思ってここに入れとい

知らないよ、生存競争激しいんだから。

「誰かおふ食べるか?」

食べる食べる、 僕大好きなんだ。

夕食後の報告会では、 僕達は金閣寺改造論を発

だから金閣寺を金苔寺にすればい L١ ځ

まで良いと考える人が多かったようである。 最後の晩であったからみんな寝なかった。 これはみんなの反発を受けた。 金閣寺は今のま

り切って、 れた。 低だと思ったから、それは考え方が違うのだと割 だと言い、 学旅行最後の晩は思い出になるように寝ないべき 何人かは眠るつもりだった。 起きている方は、 っても、僕と後藤君と渡辺君と、同室にいた班の 文句も言わなかった。どうにか僕は 僕はそんな事で思い出を作るなんて最 修

センチ四方の金箔を

まった。 ところが夜中に手錠をかけられ、 飛び起きてし

何だよー。 はずせよ。 この野郎

第四日目----。

こられたらしく、こんなことを言っていた。 そんなことをしていたから先生に見つかってお

つかっちゃったよ。」 「手錠かけてたら、いきなり先生にどなられて見

「あんまりおこってなかったけどね。

後藤君は騒ぎにまきこまれたらしく、

れなかったんだぞ。裏切り者。」 「お前、先に寝ちゃっただろう。 おれなんか寝ら

Ļ 僕を裏切り者呼ばわりした。

いので、 たら、みごと的中、鹿めしであった。 ったのでもしかすると朝食は・・・と心配してい 食が運ばれてきた。 昨晩の食事があまりにも良か 国語の勉強で自宅へ手紙を書かなければならな いやいやながらそれを書いていると、朝

「あーあ、やっぱりか。

「きのうが良すぎたんだなあ。

「ぎゃっ、油虫だ。」 さてご飯をつごうとすると

「何?どれどれ。」

「あ、本当だ・」

何とゴキブリの幼虫が入っていたのである。

ゴキブリの多い宿だなあ。 まったく。

それと関係があったかなかったか分からないが、

人間はいない。 うな気がした。 いくらなんでもゴキブリの好きなその日の朝食はみんなあまり食が進まなかったよ

する建築物・庭園がある。北山文化のはなやかさ銀閣寺は正式には慈照寺と言い東山文化を代表て宿の人に挨拶してバスに乗った。まず銀閣寺へ。いよいよ最後の日である。感謝の気持ちをこめ



た感じである。 に比べて、落ちつい

「銀閣寺は銀苔寺だ僕達は感激した。

ね。」な感じでなくちゃな感じでならかかっぱりこう静か

ね。

ね。」「こんなところで静かに昼寝なんかできたらいいろと見て行ったのであまりゆっくり見れなかった。西芳寺に少し似た回遊式庭園だが、全員でぞろぞ

てこんな別荘を造ったのだろうか。 先生がそんなことを言った。 義政も昼寝をしたく

気がある。しかし僕達はすぐに入れた。二条城は数時間待っても入れないことがある程人、銀閣寺を出てバスにもどり、二条城へ向った。



全員でぞろぞろと入って行き説明を聞いた。ここは研究していないここは研究していないを持っていたので、京都良の方には大きな興味良の方には大きな興味を持っていたので、京都を持っていたので、京都を持っていたのだ。

「あんまり役にたたないじゃない。」(そーっと足をすべらせれば音しないよ。」全員が歩くものでうぐいすの大合唱となる。少し行くと有名な「うぐいすばり」の床である。

内を見て二条城を出た。 大事なことは余り覚えてこなかった。ぐるっと城ではないだろうか。そんなことばかり考えていて、く度に鳴るんじゃ、うぐいすの声も苦痛になるのぐいすばり」も、時々聞くなら良いけど、毎回歩かすがいが床板と摩擦しても音を出すとい「ううかすがいが床板と摩擦しても音を出すとい「うう

はまったような説明で面白くなかった。を撮り、クラス別に見学した。バスガイドの型に清水坂を通って門の前まできた。そこで記念写真最後に清水寺に行った。みやげ物店の並ぶ長い



やつだ。」

になるほど、「清水の舞台であるほど、「清水の舞台がいるなんで、そうとがいるからな。」 「一本も釘が使ってないで、本のとででありるなんで、そうというの覚悟がいるからな。」

は飲めなかった。った。他の修学旅行生が水を飲んでいたが、僕達舞台の横の階段を降りて行くと「音羽の滝」があ「大地震がきたらおだぶつだな。」

「くやしい。みんなコレラでくたばれ。」

「そうだ、そうだ。」

を通って正面にもどった。なにしろその日は暑かったのだ。清水の舞台の前

だが、班行動だからしかたない。った。僕はそんな時間は必要ないと思っていたのここで解散して各グループ、買い物の時間とな

円、上の方の店では百四十円で売っていたのだ。ら五十円のものを、清水坂の下の方の店では七十ら五十円のものを、清水坂の下の方の店では七十

いた。僕達は余ったフィルムを使い切るために、帰りの新幹線では、先生はすっかり疲れて寝てみやげを買ってバスにもどった。そして京都駅へ。みんな「YOKO」と書かれた紙袋にいっぱいお

みんなの写真を撮ったりして遊んだ。

## あとがき

だが、今では人に説明できるほどになった。んなもののことはこれっぽっちも知らなかったの石造物にやみつきになってしまった。これまでそ僕はこの修学旅行によって、仏像や塔や飛鳥の

ろう。これだけの量の紀行文が書けることからも訳るだプ行動があったことのおかげである。その成功は自分達で作った修学旅行であったことや、グルー会れというのも、観光旅行的な修学旅行でなく

た。 を成功させるのがどんなに素晴らしいことか知っ 僕はこの修学旅行を通して、苦労して一つの事

## 先生のコメント

かった。(伊東)
いいな! いい修学旅行ができて、ほんとうによ考える習慣がついてきているのもいい。金苔寺はよく調べてあるのに感心した。自分の眼で見、

漢字を正確に。

## 編集者より

た痕がある。修正後の原稿を元に入力した。48 枚に及ぶ紀行文である。少しだけ漢字を修正し年)の鉛筆書き・手書きの原稿用紙(四百字詰)八幡明彦、洋光台二中3年4組時代(一九七七

[池田 2014年11月17日]

14